

4-4 史料編纂室

4-4-1 はじめに

平成 18 年 1 月,分子研・史料編纂室が設けられ,分子研創設に至る十数年にわたる長い歴史を物語る多数の資料(史料)が失われないよう,関連史料をできるだけ収集・保存するため,アーカイブズ活動を進めている(南実験棟 102・109 号室)。なお,現在のメンバーは,木村克美,鈴木さとみ,南野 智,薬師久弥(室長)。

昨年までに収集した史料を大別すると,次の三つに分類できる。

- 1) 日本学術会議の勸告以前の史料(約 4 年間)
- 2) 日本学術会議勸告から分子研準備室時代までの史料(約 9 年間)
- 3) 分子研準備室時代から創設十周年記念までの史料(約 11 年間)

長倉三郎先生(第二代所長)から提供された史料は主に分類 1 と 2(準備室以前)であり,井口洋夫先生(第三代所長)から提供された史料は主に分類 3(準備室以降)である。

総研大のアーカイブズプロジェクトの一環として,当史料編纂室も他の基盤共同利用機関アーカイブズ室と情報交換をしながら,アーカイブズ活動を進めている。他機関とのこれまでの交流は,分子研アーカイブズ活動にとって大変に役立っている。

4-4-2 史料目録作成と史料保存

史料目録の作成は主にソフトウェアメーカー Pro を使って行なっている。また,史料データ共有化のために国文学資料館 EAD 化も試みている。史料は文書保存箱に整理して保存している。長期保存のため,最近は中性紙の保存箱も利用している。各史料は,通常の複写(紙コピー),デジタル化(PDF),さらに一部は長期保存のためのマイクロフィルム化も進めている。

4-4-3 最近寄贈された史料

1. 寄贈 [分子集団動力学研究部門, 平 21.2.24, 平 21.2.27, 平 21.6.1]
(a) 丸山有成教授退官記念資料および記念文集「物性研, お茶大, そして分子研の日々」, (b) Special Research Report (井口洋夫代表)「Molecular Assemblies」, (c) 井口洋夫グループ論文集「Organic Semiconductor」No.12,14,15.
2. 寄贈 [井口洋夫, 平成 21.3.27]
(a) 日英科学協力事業「分子科学」事業報告書(以下の数値は年度)昭 56 ~ 61(192 頁),昭 62(48 頁),昭 63(56 頁),平 1(53 頁),平 3(81 頁),平 4(71 頁),平 7(78 頁),平 8(59 頁), (b) 日英協力事業に関する年表「JAPAN/UK Cooperation Research on Molecular Science」, (c)「分子科学研究所創設披露記念」冊子(35 頁, 1979), (d) 科学雑誌「科学」43 巻(1973 年 4 月号), (e) 冊子「分子科学研究所の設立」(設立推進委員会: 赤松秀雄・長倉三郎・井口洋夫, 2 頁, 昭和 48), (f) 新聞記事(分子研関連の記事 8 件)。
3. 寄贈 [北川禎三, 平 21.5.21]
平 14 ~ 18 年度特別推進研究「化学研究費補助金」研究成果報告書
4. 寄贈 [吉原経太郎, 平 21.7.23, 21.8.21]
(a) 教授会議議事要旨(第 29,33,35,36,37,38,41,42,43,45,46), (b) 分子科学研究所創設協力者会議議事要旨(第 7,8,9,10,11), (c) Swedish-Japanese Symposium on Molecular Science, (d) 分子科学研究所大型研究設備検討会(記録), (e) 太陽エネルギーの化学的変換・貯蔵の国際研究協力に関する会議, (f) 科学研究費補助金(国際学術研究)交付

申請書, (g) Progress Report for Project under 文部省 -SERC Aide-Memoir, (h) 文部省 - SERC 覚書に基づく日英学術交流の概要, (i) The 30th Okazaki Conference "Electron Dynamics in Chemical Processes" プログラム, (j) 日英科学協力事業「光合成による太陽エネルギーの転換」日米情報交換セミナー, (k) 文部省と英国科学工学研究会議 (SERC) との間の覚書について, (l) 日米セミナー「光化学変換における光化学の新しい展開」, (m) Program of the Visit of the Japanese Delegation in Prague, (n) Joint Czech-Japanese Seminar on Cooperation, (o) 海外学術調査「光と物質の相互作用の分子科学研究の動向調査」(英国), (p) 日米セミナー「Photo-electrochemical Energy Conversion」(サンディエゴ), (q) 日米科学技術協力事業「光合成による太陽エネルギーの転換」, (r) 昭和 57 年度科学研究費海外学術調査, (s) 日米科学技術協力事業, (t)「光合成による太陽エネルギーの転換」分野における日米情報交換セミナー。

4-4-4 総研大アーカイブズ関連研究会への参加

(氏名は分子研からの参加者)

- (a) 総研大プロジェクト全体会 [21.1.8, 生理研セミナー室, 岡崎市] 木村・鈴木.
- (b) 総研大プロジェクト全体会 [21.1.13, NINS 会議室, 東京] 木村・鈴木.
- (c) 「文書管理とアーカイブズ」研究会 [21.1.22-23, KEK] 木村・鈴木.
- (d) 総研大プロジェクト全体会 [21.2.5-6, NINS 会議室, 東京] 木村・鈴木.
- (e) 総研大プロジェクト打合せ [21.2.19, 国立民族学博物館, 吹田市] 木村・鈴木.
- (f) 研究会「研究記録アーカイブズ」[21.2.21, 国文学研究資料館, 立川市] 木村・鈴木.
- (g) 総研大プロジェクト研究会「EAD 化について」[21.6.4, KEK 会議室, 東京] 木村.
- (h) アーカイブレコーディングセミナー [21.7.9, 富士フイルム本社, 東京] 木村.
- (i) 総研大プロジェクト見学会 [21.8.26, 国立歴史民俗博物館, 佐倉市] 木村・鈴木.
- (j) 総研大プロジェクト打合せ [21.9.18, NINS 会議室, 東京] 木村.
- (k) 研究講演会「公文書管理」[21.10.9, 中央大学駿河台記念館, 東京] 鈴木.
- (l) 総研大プロジェクト研究会 [21.10.23, 京大稲盛財団記念館, 京都] 木村.
- (m) 総研大プロジェクト打合せ [21.12.03, NINS 会議室, 東京] 木村.
- (n) 総研大プロジェクト打合せ [21.12.21, KEK 会議室, 東京] 木村.
- (o) 「公文書利用規程に関する研究会」[21.12.24, 京大総合博物館] 木村・鈴木.
- (p) 公開研究集会「アーカイブズ編成の理論と実践」[22.1.9, 国文研, 立川市] 木村.
- (q) 総研大プロジェクト打合せ [22.1.29, NINS 会議室, 東京] 木村.
- (r) 「分子研創設の歴史」[21.03.28, 日本化学会春季年会, 東大阪市] 木村.

4-4-5 史料編纂室ホームページの作成

平成 21 年 12 月, 史料編纂室のホームページを立ち上げた。現在, まだテスト公開なので, 分子研所内に限定して公開している。史料編纂室に寄贈された史料は, ファイルメーカー Pro によってデータベース化を行っている。ホームページ上からの簡易検索・閲覧機能を実現するため, これらのデータベースを基に, 以下の項目を抜き出した HTML 形式の史料リストファイルを作成している。1) 史料番号 (ID Number), 2) 文書・史料名, 3) 資料内容, 4) 機関情報, 5) 資料作成者・機関, 6) 所在情報, 7) 資料の形態, 8) 性格情報, 9) 作成年月日。なお, 史料リストファイルには, 史料に関する詳細な情報が含まれているので, インターネットエクスプローラー (IE) などのブラウザに標

準装備されているページ内の検索機能（IE の場合「ctrl+F」）を使用することによって、必要な史料を見つけ出すことができる。さらに、このリストの ID Number と史料の電子化ファイル（PDF 形式）がリンクで結ばれるように、ID Number のリンクをクリックすることによって、史料の PDF ファイルを閲覧できる機能を実現した。

4-4-6 今後の方針

史料編纂室アーカイブズ活動は今後とも他機関のアーカイブズ室と連携を保ちながら、史料の収集・保存・共有化の作業も進めていきたい。

史料編纂室のオリジナルの史料は厳重に保存しなければならないので、紙コピーの作成および PDF ファイルの作成の作業を順次進めている。現在、史料の閲覧および複写は所内関係者には原則として公開されているが、その際には閲覧簿に必要事項（所属・名前など）を記載していただいている。なお、一般の希望者にも史料の公開を検討している。